

目 次

はじめに

尾張町の意味

全国の尾張町の分布

尾張町の分類

尾張町の仲間達

金沢尾張町の意義

おわりに

参考文献

金沢市尾張町：石野琇一

【はじめに】

郷土“金沢”における「尾張町」は、前田利家入城の頃より加賀の歴史に深く関わりを持って来ています。また、その発展して来た処は、古く山崎村凹市として栄えたり、一向一揆砦でもあった“おやま御坊”等としてあったり、金沢の成り立ちに縁(ゆかり)の場所であっただけに、尚更に深く引き付ける課題のように思われます。

近年は、全国どこでも町名の統合廃合が進み、だんだんに歴史の味わいを遺す町名が消えて行く状況にあります。そんな中で、尾張町で生まれ育った者として、この町への愛着からささやかな来歴を調べました。

ただ、その視点は日本全国の中で、どのような位置付けにあるか、との見方を致しました。ために、それぞれの地域でどのような由来を持っているのかにまで、観点を広げています。

【尾張の意味】

日本国語大辞典によれば、“尾張”の地名は、「東海道の一国。北側は美濃国、東側は三河国に接して、南側は伊勢湾に面する。室町時代に守護代織田氏が勢力を拡大。江戸時代には徳川御三家の一つ。尾張藩が支配。現在の愛知県西南部にあたる」とされ、語源説としては、「侏ヲハリ(小墾・小治)田の義。侷地形の突出した形が尾に似ていることから。侏ヲハリ(終)の義。俚剣の名の天之尾羽張から」

また和漢三才圖會に由来を見れば、「風土記云、日本武尊征東夷還到當國、以所帶劍藏于熱田宮、其劍原出於八岐巨蛇尾、仍號尾張國」と書かれています。

辞書による愛知県の“尾張”に関しては、色濃く地域の特性を反映しているようですが、これを全国に目を向けた場合はどんなものでしょうか。

【全国の尾張町の分布】

ちなみに、まず単に「尾張」という地名だけで調べて見ますと…。

北から、群馬県では”尾張郷”。

東京都では中央区の”尾張橋”。

神奈川県では横浜市西区”尾張屋”

長野県では”尾張部郷”。

愛知県では”尾張旭市”、稲沢市の”尾張大国霊神社”、弥富町の”尾張大橋”（三重県長島町に架かる）、”尾張丘陵”、”尾張勅旨田”、”尾張国”、”尾張荘”、”尾張藩”、犬山市の”尾張富士”、”尾張平野”、瀬戸市と名古屋市守山区にまたがる”尾張戸神社”、小牧市の”尾張村”。

三重県では長島町の”尾張大橋”（愛知県弥富町に架かる）。

大阪府では大阪市南区の”尾張坂町”、柏原市の”尾張郷”。

鳥取県では赤碕町の”尾張川”と”尾張”。

岡山県では岡山市の”尾張村”、邑久町の”尾張”。

といった地名が主な処です。

次に「尾張町」という町名で調べて見ますと…。

東京都では新宿区”尾張町”、中央区”尾張町”。

神奈川県では横浜市中区”尾張町”。

新潟県では上越市”尾張町”、相川町”尾張町”。

静岡県では浜松市”尾張町”。

京都府では京都市中京区”尾張町”。

そして、石川県金沢市”尾張町”。

といった処があり、案外に同じ名の地名・町名が多いことに気付きます。

尤も、これらの中には、すでに現存していない過去の名称や現在では用いられていない名称もあります。けれど、総合的な日本全国レベルでの由来を調査するには、決して切り捨てるものではないと考え、分かる範囲まで記載して行こうと思っています。

【尾張町の分類】

ともあれ、全国に分布する「尾張〇〇」二十二ヶ処、及び「尾張町」八ヶ処があり、今もこの内の幾つかは地名・町名として存続していることで、“尾張”に由来ある連綿と続く人々の生活の蹟を見せてくれているといいたいでしょうか。

そんな個々の由来を調べていると、大きく五つの傾向があるようです。

- 一、その地域固有の由来に基くもの。
- 二、徳川氏以前の尾張の地に何らかの関係ある由来に基くもの。
金沢尾張町の如く、尾張国出身の前田利家の関係から来るもの等。
- 三、江戸時代の徳川御三家としての尾張藩の由来に基くもの。
- 四、現在の愛知県の旧称尾張に基くもの。
- 五、その他のもの。

等となり、角川日本地名大辞典を参考にして、それぞれを該当するものに振り分けてみますと

〈現在は無くなった地名〉

- 一、○群馬県“尾張郷”＝平安期に見えた郷名。
 - 神奈川県横浜市西区“尾張屋”＝開拓者太仲の屋号に由来していた。
 - 長野県長野市“尾張部郷”＝大和国葛城の高尾張から発祥した尾張氏の住んだらしい土地。
 - 大阪府柏原市“尾張郷”＝平安期の郷名で、奈良期には「中ノ郷」と呼ばれていた。
 - 岡山県岡山市“尾張村”＝室町期に見えた村名。
- 二、○愛知県“尾張勅旨田”＝平安末期から戦国時代に見えた荘園名に由来する。
 - 愛知県“尾張国”＝愛知県のほぼ西半部にあたる東海道の一國であった旧国名に由来する。

- 愛知県”尾張荘”＝平安期に見えた荘園名に由来する。
- 三、○東京都中央区”尾張橋”＝尾張家下屋敷の近くの築地川に架かっていたために呼ばれた橋。”尾張殿橋”とも呼ばれた。。戦後は築地川の首都高速道路化によって廃橋となった。
- 愛知県”尾張藩”＝江戸期の徳川御三家の藩名で、名古屋藩・尾州藩ともいわれた。
- 四、○愛知県小牧市”尾張村”＝明治二十二年から三十九年までの西春日井郡の合瀬川中流左岸付近の村名。

《現存する地名》

- 一、○鳥取県赤碕町”尾張”＝黒川の支流尾張川流域に位置し、江戸期は尾張村と呼ばれ、現在は大字名で残る。
- 鳥取県赤碕町”尾張川”＝黒川水系の2級河川。
- 岡山県邑久町”尾張”＝日本武尊の弟の末裔とされる尾張連の一族が居住したとか、淳和天皇の頃に田原藤太夫によって開墾されて墾(おわり)・小治(おわり)となったとされる。江戸期は尾張村と呼ばれ、現在は邑久町の大字名。
- 二、○愛知県稲沢市”尾張大国霊神社”＝崇神天皇七年に創建され、旧国幣小社だった。
- 愛知県”尾張丘陵”＝濃尾平野の東側、瀬戸市付近から豊明市付近にかけて連なる丘陵地。
- 愛知県犬山市”尾張富士”＝犬山市のほぼ中央にある富士山に似た山。
- 愛知県”尾張平野”＝愛知県北西部から岐阜県南部へかけて広がる濃尾平野のうち愛知県側の呼び名。
- 愛知県瀬戸市”尾張戸神社”＝瀬戸市と名古屋市守山区にまたがる東谷山頂にある神社で、旧郷社だった。
- 四、○愛知県”尾張旭市”＝旭町が尾張旭町と改称すると同時に、市制施行して出来た。
- 愛知県”尾張大橋”＝木曾川に架かる橋で、愛知県海部郡弥

富町と三重県長島町を結ぶ。

〈現在は無くなった町名〉

- 二、○新潟県相川町”尾張町”＝尾張国出身の山師に由来するとかで、江戸期の町名。元禄期には九郎左衛門町の沢となり、現在は相川の1町。
- 三、○東京都新宿区”尾張町”＝江戸期は四谷と呼ばれていたが、尾張藩中屋敷等があった関係で明治二年より昭和十八年まで尾張町となる。現在の四谷見附公園付近。
 - 東京都中央区”尾張町”＝慶長年間に町地の造成をした大名の国名によると思われるとか。江戸期から昭和五年までの町名で、現在は銀座5～6丁目となっている。
- 四、○神奈川県横浜市中区”尾張町”＝明治の町名で、横浜居留地30ヶ所の1つだった。当初は番号のみで呼ばれていたものを明治七年、日本の著名な国名・都市名等を便宜上振り分けた際に付けられた。現在は山下町で横浜中華街の一角になっている。
- 五、○大阪市南区”尾張坂町”＝江戸期は大坂三郷南組だった。
 - 新潟県上越市”尾張町”＝明治から昭和五年の町名で、現在は南城町となっている。

《現存する町名》

- 一、○京都市中京区”尾張町”＝麩屋町通二条下ルの町。寛永十四年洛中絵図に「尾張町」と見え、以後現在まで変わらない。「京雀」尾張町の項には「そのかみこの町に素麵腐温鈍の粉を売ける家おほかり」と麩屋町通りの由来を記している。
- 二、○石川県金沢市”尾張町”＝前田利家の出身地「尾張」から来た商人を住ませたのでこの名が付いたといわれ、藩政期は金沢の経済の中心地であった。また一時期、尾張からついて来た足軽、小者等が住んでいたとの説もある[金沢市歴史のまちしるべ標柱]。

三、○静岡県浜松市”尾張町”＝三方原合戦の時、敗走中の徳川家康が馬上から、鎧の紐を垂らしたままこの地を通過したため「紐垂(ひもたれ)」の地名が付いたが、いつの頃からか「下垂」の字をあてるようになったという。

地籍整理の時、下垂という町名は品が良くないという町民の意見によって、尾張町とした。たまたま江戸時代の古地図を見ると、下垂の一角に尾張という小字名が見えている。尾張国からの移住者達が、居住していたところといわれており、その尾張の字名をもって町名としたのです[浜松市立図書館資料]。

【”尾張町”の仲間たち】

「こだわり」が物事を進める原動力とするならば、ささやかな尾張町に対するこだわりは何を推進し、見えさせるのでしょうか。加賀百万石の祖前田利家の出生の地である尾張名古屋との関連を求めて、名古屋市中川区荒子町を訪ねて、時を超えたつながりも確認致しました。また、支藩であった七日市藩の所在地である上州上野国(群馬県)を始め、日本全国に”尾張”というキーワードを以て目を転じて、その概略を見て参りました。

現在までに分かった範囲では、愛知県”尾張”の地の歴史に何等かの関連のある地名として.....

- ・愛知県の”尾張勅旨田”、”尾張国”、”尾張荘”(但し現存せず)
- ・愛知県の稲沢市”尾張大国霊神社”、”尾張丘陵”、犬山市”尾張富士”、”尾張平野”、瀬戸市と名古屋市守山区”尾張戸神社”(現存する)

また同じように歴史的に関係する町名として.....

- ・新潟県の相川町”尾張町”(但し現存せず)
- ・石川県の金沢市”尾張町”(現存する)

と、案外に少なく、中でも前田利家に関係するものは、その関連地

域である愛知県(出身地)、福井県(初めて領有した府中武生の地)、石川県(能登所口七尾の築城地、加賀藩主としての金沢の地)、群馬県(支藩の七日市藩の地)、東京(徳川政権のあった江戸屋敷の地)、京都(天皇のいた京都屋敷)、大阪(商業としての大坂屋敷)と広範にも拘わらず金沢市”尾張町”以外は、どこを見渡しても後世にまで伝わっていません。これは、徳川幕府の下でひたすら目立つ動きをせず、御家第一で経済と文化を奨励して来た賜物なののでしょうか。領民も不必要に幕府を刺激しないでおこうとの意識があったのか、伝承的な由来も見つかりません。

逆に、徳川御三家の一つである尾張藩は、何ら遠慮する必要がなかったためか、遠慮が感じられません。そのままおおらかに名称が残っているように見受けられるようです。

尾張藩に関係する地名として.....

- ・東京都の中央区”尾張橋”、愛知県の”尾張藩”(但し現存せず)
- また同じように尾張藩に関係する町名として.....
- ・東京都の新宿区”尾張町”、中央区”尾張町”(但し現存せず)
- ・静岡県の浜松市”尾張町”(現存する)

という具合に、名称は現存しないものを含めて五項目もあることに気がきます。

尚、以上の他にその地域固有の由来の地名として.....

- ・群馬県の”尾張郷”、神奈川県横浜市西区”尾張屋”、長野県の長野市”尾張部郷”、大阪府の柏原市”尾張郷”、岡山県の岡山市”尾張村”(但し現存せず)
- ・鳥取県の赤碕町”尾張川”と”尾張”、岡山県の邑久町”尾張”(現存する)

また同じようにその地域固有の由来の地名として.....

- ・京都市の中京区”尾張町”(現存する)

もあることが分かります。

【金沢”尾張町”の意義】

こうして見てくると、前田家の徳川政権に対する気の使い方から、対外的にはあまり”尾張”の言葉を使わなかったようです。むしろ前田家を末長く存続させるべく、北陸という限定された地盤の中で安定した発展を望んでいたのでしょうか。確かに整いつつあった徳川政権下で、あえて前田家が全国に覇を唱えて混乱させることよりも、内政充実で地域に同化する道を選ぶことの方が賢明であったのでしょうか。

荒子(前田利家の出身地である名古屋市中川区)に住む古老に聞くと、「農らの先祖の中でも優秀な者ばかりが利家さんに付いて加賀の地へ行ってしまった」と言われる程に、加賀藩前田家にとっての”尾張”の地(出身地である荒子)とは、『信頼』の根源であったようです。

考えてみれば、下剋上の戦国時代の現実を潜り抜けて来た当時の人々にとって、信用出来るのは「血縁」(血のつながった一族)か「地縁」(同じ釜のめしを食べ合った在郷の仲間)しかなかったのでしょうか。そうした意味で尾張町商人の始まりは、「地縁」関係による用向きをしていた人々が金沢の地に移り住んだことは当然のように思われます。

歴史の大きな流れは、諸々の経緯を包含しながら、もともとの加賀の歴史に新しい意味を加えつつ、商人町尾張町の独自の発展が進んだようです。江戸時代に入ってから藩主の経済・文化を表に出しながらも、必要にして十分な情報収集も怠らなかったのはご承知の通りです。商人の財産が「金」と「土地」にプラスして文化的要素の「道具」類の三分割になっ行ったこと、江戸三度京三度の飛脚便を通して素早い情報処理をすることの手伝いをしていたらしいこと。

これらを見ていると、出身の”尾張”前田家というよりも、現実に関根を降ろし始める決意をした”加賀”前田家としての色合いが強く感じられます。もしかすると、徳川家に対する遠慮などという表

面的な配慮などではなく、自らの将来の地盤を築く北陸“加賀”の地を、徳川家に並び称せられるか、或いは実質的に超える程の意気込みを持つような覇気というか積極性があったと、尾張町生まれの私は信じたいのです。

すれば、加賀の地に於ける前田家にとって、かつての“尾張”という名称にこだわるよりも、将来に繋がる“加賀”や“前田”の方に、自然と名称を付ける重点が移行して行ったと考えられないでしょうか。そして“尾張”の名称は、あくまで加賀藩・前田家の出発点というか原点としての特別な意味を遺しつつ.....。

と私論(試論)をすれば、前田家に関連する“尾張”の名称が少ないことに、一つの意味が求められないでしょうか。

【おわりに】

幸いにも、この調査を通じて“尾張町”の仲間の輪も広がりました。名称で結ばれる仲間、また名称は残ってなくてもその歴史的な事柄で結ばれる仲間。決して何の脈絡もなく孤独なのではなく、表に形として現れる現れないを問わず、いろいろなつながりが有ることに力付けられたと申せましょう。

そしてきっと、まだ見知らぬ方々が、今後さらに増えて来ることが楽しみになっています。

ですから、これは「尾張町来歴の私論」のあくまで序編であります。まず、自分の住んでいる処だけでなく、日本全国の中での相対的な視点で我が町“尾張町”の位置付けを確認し、そこから新しい一歩を進めるつもりなのです。

いろいろ至らない点もあると思いますが、第二部を進めるに当たっての、皆様よりの暖かいご教授の程をお待ち致しております。“加賀”の意味についても、さらに考察を重ねて行きたいと思っておりますし。

以上

【参考文献】

- | | | |
|---------------------|------|---------|
| ○ 角川日本地名大辞典(北海道～沖縄) | | 角川書店 |
| ○ 郷土歴史大辞典 石川県の地名 | | 平凡社 |
| ○ 加能郷土辞彙 | 日置謙 | 北国新聞社 |
| ○ 加賀藩史料 | | 清水堂出版 |
| ○ 稿本金沢市史 | | 金沢市 |
| ○ 中川区史 | | 名古屋市中川区 |
| ○ 濱松風土記 | 會田文彬 | 浜松市立図書館 |
| ○ 和漢三才圖會 | 寺島良安 | 東京美術 |
| ○ 日本国語大辞典 | | 小学館 |